

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告について

・ 三重県地方卸売市場	1
・ 三重びよクエの森（三重県民の森）	13
・ 伊賀上野びよクエの森（三重県上野森林公園）	22

令和8年10月

農 林 水 産 部

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和7年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県地方卸売市場 (松阪市小津町 800 番地)
指定管理者の名称等	みえ中央市場マネジメント株式会社 代表取締役 中尾兼隆 (松阪市小津町 800 番地)
指定の期間	令和6年4月1日～令和 11 年3月 31 日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 市場事業の実施に関する業務 2 市場内での業務の承認等に関する業務 3 施設の利用の許可等に関する業務 4 利用料金の収受等に関する業務 5 施設の維持管理等に関する業務 6 その他県が市場の管理運営上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R7	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B			○施設の利用許可や営業承認等に関する業務について、取扱基準・事務処理要領に基づき、事業者に対して適切な事務手続きを行っている。 ○施設の維持管理等に関する業務について、自主的な定期巡回点検と専門業者による保守管理により、異常箇所の早期発見に努め、延べ 97 件の修繕工事を迅速に行うなど、市場施設の維持管理に努め、円滑な運営を図っている。
2 施設の利用状況	B	B			○施設利用面積率について実績が 91.7%と、目標である 90%を超えており、市場施設の有効利用を図っている。
3 成果目標及びその実績	B	B			○県が設定する成果目標について ・市場施設の活用 (目標:施設利用面積率 90%以上) 令和7年度末時点の施設利用面積率は、91.7%と目標を達成し、施設を十分に活用している。 ・親しまれる市場づくり (目標:場内イベント等の開催・参加回数 15 回以上) 「にぎわい市場デー」や「いちばの料理教室」の開催など、イベントを年 25 回実施し、目標を達成しており、親しまれる市場づくりを進めている。 ○指定管理者からの提案型事業目標について ・ホームページやSNS等を利活用した情報発信回数 (目標:年間 30 回以上) 「いちばの料理教室」の開催に関する事項や市場の旬の食材の情報発信をホームページ及びSNSを活用して、年 54 回実施し、目標を達成している。また、ホームページアクセス数は前年度から 2,113 件増加の 14,322 件(前年比 17.3%増)、SNS交流人口は前年度から 2,608 名増加の 10,890 名(前年比 31.5%増)であり、情報発信の効果が表れている。

					・市場からのごみ排出量(目標:年間 750t 以下) 市場協力会の監視活動を強化し、生ごみ、パレット、不燃物の削減に努め、その結果、排出量は、年間 564.2tとなり、目標を達成している。 ・HACCPに関連した啓発活動等実施回数(目標:年間 12 回以上) HACCPの考え方を取り入れた衛生管理にかかる研修会など、HACCPに関連した啓発活動を年 17 回実施しており、目標を達成している。 ・県市場活性化に向けた県市場関係事業者等との会合等回数(目標:年間 12 回以上) 経営強化支援事業にかかる説明会など、県市場活性化に向けた会合等を年 32 回開催しており、目標を達成している。
--	--	--	--	--	--

※「評価の項目」の県
の評価 :

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な 評価	①成果目標について、全ての目標を達成している。 ②指定管理者からの提案型事業目標について、全ての目標を達成している。 ③管理運營業務について、市場内事業者の利用許可・営業承認業務等を適切に実施している。また、県が行う大規模修繕では、場内事業者との調整を適切に行うとともに、指定管理者による小規模修繕も延べ 97 件実施するなど、市場施設の維持・管理を十分に行っている。 ④今後も引き続き、施設の有効利用、適切な維持管理を行うとともに、場内事業者と連携し、市場の魅力発信や消費者との交流等の取組がより一層進むことを期待する。
------------	---

<指定管理者の評価・事業報告書(令和7年度分)>

指定管理者の名称: みえ中央市場マネジメント株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①管理運営事業の実施に関する業務

(管理運営体制及び職員配置)

- ・運営体制は、役員 12 名の内の1名を常勤の常務取締役として実務を担当させ、「総務・精算事業課」(課長1名・正社員1名・契約社員1名・非常勤社員2名)、「業務課」(課長1名・副課長1名・正社員 1 名)、「市場協力会事務局」(事務局長1名・非常勤社員1名)の2課1事務局体制で業務を行った。
- ・営業日は、市場の開場日とし、年度合計で青果部、水産物部ともに 249 日であった。なお、勤務時間は、8時 30 分から 17 時までとしている(土曜日は8時 30 分から 12 時まで)。
- ・毎月1回、県との定例会議を開催し、三重県地方卸売市場の適正かつ健全な運営や関係する組織等の情報共有等を行った。
- ・監視システムを設置し、防犯や安全管理の強化を図るとともに、警備員の常駐を取りやめ、運営経費の削減を図る体制を構築した。

(人材の育成・確保)

- ・目標シートに基づき、常務取締役が社員一人一人と面談し、年度終了時に自己目標の達成度合いと成果について検証するとともに、職務意欲向上に努めた。
- ・指定管理者としての業務を的確に推進していくために、社員を対象に、マネジメント能力・経理能力・専門能力等の向上や、人権意識の向上に向けたOJT、OFF-JTを行った。
- ・社内ミーティングや課長・事務局長会議を、それぞれ月2回行い、情報の共有、業務や成果目標の進捗状況、スケジュール表の確認等を徹底した。
- ・就業規則の改善に向けて検討を進め、パートタイマーを対象にした規則を新たに作成し、実施することとした。

(施設の利用許可及び営業承認業務)

- ・市場施設の利用許可や事業者の営業承認業務については、三重県地方卸売市場条例や同施行規則及び三重県地方卸売市場の管理運営に関する基本協定書のほか、「三重県地方卸売市場に係る市場施設の利用許可及び市場内での営業承認等取扱基準」や「三重県地方卸売市場事務処理要領」等に基づき、公平・公正かつ迅速に行った。
- ・適正な市場秩序の保持に向けて、市場協力会を中心に議論し、せりへの参加資格などについて、英語等の外国語も併記した看板を作成し、市場関係者等に注意喚起等を行った。
- ・三重県地方卸売市場条例を遵守するとともに、公表・報告しなければならない事項等について、場内事業者にも周知徹底した。
- ・営業承認取消し等の不利益処分に該当する事象はなかった。
- ・市場施設の利用許可件数は、56 件(新規 5 件、継続 51 件)であった。

・営業承認件数の増減は、下表のとおり。

	令和8年4月1日現在の 事業者数	令和7年4月1日現在の 事業者数	増 減
仲卸業者	9	9	±0
売買参加者	201	209	△8
買出人	119	132	△13
関連事業者	16	17	△1

(新規入場者の確保)

- ・新規入場者の確保や施設利用率の向上に向けて、社長が積極的にトップセールスを行うなど、誘致活動を実施した結果、事業拡大等による利用拡大が実現した。

(売買参加者・買出入の増加)

- ・売買参加者等の新規加入を図るため、「にぎわい市場デー」、「農大祭&西山農業祭り」や「武四郎まつり」等、PRの機会を通じて市場流通の仕組みや卸売会社、仲卸会社等を紹介する市場パンフレットを配布した。新規登録は、売買参加者2件、買出入5件であった。

(取引の適正化)

- ・売買取引について、取引関係者である卸売業者及び仲卸業者並びに売買参加者が参加する市場協力会の理事会、青果部取引部会及び水産物部取引部会において議論し、適正な取引を指示するとともに、秩序保持に努めた。なお、取引に関する異議申し立てはなかった。

(衛生管理の推進)

- ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の完全実施に対応するため、研修会(2回)を開催するなど、事業者への啓発等に努めた。
- ・食品衛生法に基づき保健所が実施する食品監視(年間2回)に同行し、その都度、監視結果と今後の対応案を作成し、場内事業者にフィードバックするなど、事業者自らの衛生に係る取組をサポートした。
- ・ハト・カラス対策として、防鳥ネットや、忌避剤、鳥よけ金具の設置に取り組んだ。
- ・ネズミ対策として、市場協力会や場内事業者と連携し、捕獲シートを活用した捕獲に取り組んだ。

(取引促進と市場流通合理化)

- ・地場野菜・果実や市場周辺の軟弱野菜の運搬には、通いコンテナ流通が定着しており、梱包資材を削減することで、流通の合理化を行っている。
- ・運営の合理化に向け、県内他市場の警備体制や施設管理の実態について、情報収集を行った。
- ・出荷者の拡大に向けて、「市場出荷における有利性」を示したパンフレットをホームページに掲載するとともに、「にぎわい市場デー」、「農大祭&西山農業祭り」や「武四郎まつり」等の機会を通じて配布した。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

(委託業務)

- ・電気保安管理、消防用設備保守管理、冷凍設備点検保守管理等、専門的な知識が必要な業務については、15件の業務を専門業者へ委託し、異常箇所の早期発見と迅速な修繕等に取り組んだ。
- ・特に重要な電気、給水、ガス等については、「保安警備作業基準」や「電気機械設備運転監視及び建築物等における自主保守管理作業基準」に基づき、施設管理委託業者による定時巡回と報告の徹底、市場関係者からの通報、社員等による定期巡回により、異常箇所の早期発見、故障の未然防止に努めた。

(県工事への対応)

- ・県と連携し、場内事業者の意見・要望等もふまえて改修工事の優先順位付けを行った。
- ・県工事(屋根用断熱材除去、屋根防水修繕、場内蛍光灯のLEDへの更新、中央監視リモートステーション盤改修、防犯監視システム整備、発泡スチロール減容機更新等)について、円滑に工事が実施されるよう施工業者に協力した。

(小規模修繕工事)

- ・小規模な修繕要望については、場内事業者が仕事に専念できるよう、特に衛生面や交通の安全面に配慮し、可能な限り迅速に対応し、延べ 97 件、税込事業費 28,884 千円の工事・調査を行った。
- ・主な工事の内容は、以下のとおりである。
- ・水産仲卸売場店舗において、シャッターの不具合の発生や鉄骨階段の著しい劣化があったため、修繕工事を実施した。
- ・青果卸売場及び仲卸売場の天井塗装が剥離したため、落下防止用ネットの設置工事を実施した。
- ・関連商品売場棟周辺で、微量のガス漏れが発生したため、補修工事を実施した。
- ・停電により、中央監視システムの部品に不具合が発生したため、修理交換工事を実施した。
- ・青果卸売場の火災報知設備において、配線異常が確認されたため、修繕工事を実施した。
- ・消防用設備等の保守点検において、火災報知設備や誘導灯設備の不作動箇所が確認されたため、修繕工事を実施した。

(建築基準法第 12 条に基づく定期点検)

- ・業者に委託し、建築設備定期点検を実施した。

(危機管理)

- ・大規模災害及び新型コロナウイルス感染症等に対する事業継続計画(BCP)について、内容を一部見直した。
- ・新型コロナウイルス感染症等について、社員及び場内事業者に対して、必要に応じて、情報提供を行った。
- ・南海トラフを震源とする巨大地震や大津波、火災、テロ災害等の非常事態に備え、「三重県地方卸売市場危機管理マニュアル」(含消防計画・自衛消防活動対策・地震防災対策)(以下「危機管理マニュアル」)の内容を抜本的に見直した。
- ・市場における防災対策として、「危機管理マニュアル」に基づいて組織的に行動することを、社内であらためて徹底した。
- ・消防法に基づく防火管理者を配置するとともに、消防署と連携し、地域住民参加の消防訓練及び松阪市の津波緊急一時避難ビルに指定された当市場の津波避難タワー見学を実施した。
- ・フォークリフトによる事故防止対策として、市場協力が会が中心となって、路面にラインを引くなどの安全対策や安全運転の啓発を行った結果、令和 7 年度にフォークリフトによる労災事故は発生しなかった。
- ・パレットの安全な保管や処分について、適切に実施するよう、市場協力が会が中心となって啓発した結果、長年屋外に放置されていたパレットが全て撤去された。
- ・不慮の災害や事故に対応するため、施設賠償責任保険(「総合賠償責任保険」)に加入するとともに、雇用管理賠償責任保険にも加入した。

③県施策への配慮に関する業務

(人権尊重社会の実現)

- ・人権意識の向上に向け、県の人権条例に関する研修を行った。

(環境経営の推進)

- ・屋外清掃活動の継続、ごみ削減による場内の廃棄物排出量削減、エコ商品の購入、節電・節水の呼び掛けや 3R 運動の推進等の啓発・教育活動を目標とした、「みえ・環境マネジメントシステム・スタンダード(M-EMS)」のステップ 1 に適合する環境マネジメントシステムを構築し、活動した結果、目標を達成した。

(男女共同参画)

- ・社内でマネジメント手法等を学ぶ市場マネジメント勉強会のメンバーの女性比率は、概ね 50% である。

(地域との連携)

- ・地域貢献の一環として、道路等の清掃・除草活動等を毎月1回、実施した。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

(情報公開)

- ・「三重県地方卸売市場の管理運営に関する情報公開実施要領」に基づき、管理文書目録及び件名目録を公表した。
- ・「三重県地方卸売市場の管理運営に関する文書整理保存要領」、「事務決裁に関する社内規程」及び「文書の取扱いに関する社内規程」の遵守に努めた。

(個人情報の保護)

- ・三重県地方卸売市場の管理運営に関する基本協定書の「個人情報の取扱いに関する特記事項」に基づき、個人情報保護責任者を任命し、個人情報の保護に努めた。
- ・「個人情報の保護に関する社内規程」を遵守するほか、OJT等によって、情報の漏洩や不正利用の根絶に努めた。

⑤その他の業務

(市場活性化委員会の運営)

- ・「市場活性化委員会」を6回開催し、関連商品売場棟の常時一般開放や、5年6か月ぶりとなるにぎわい市場デーの再開を決定した。また、他市場の先進的な取組、市場活性化に向けた取組、施設の整備や改修等について情報共有を行った。

(場内情報の共有化)

- ・情報の受信手段が多様化する中、メールや直接対話など場内事業者の環境にあわせた手段で、丁寧に情報共有を行い、情報伝達・共有に漏れがないよう努めた。

(市場マネジメント勉強会の運営)

- ・「卸売市場・経営層セミナー」(3回)、「環境や衛生管理にかかる研修会」(2回)等を活用して、役職員等の資質向上を図った。

(開かれた市場づくり)

- ・市場と消費者の新たな交流手段の一つとして、関連商品売場棟を常時一般開放するとともに、5年6か月ぶりとなるにぎわい市場デーを開催した(3回)。
- ・ホームページやSNS等を利活用した市場と消費者の交流について、継続して取り組んだ。
- ・「いちばの料理教室」について、食育に関する観点を盛り込むとともに、新規の参加者を増やし、SNSで積極的に情報発信した。

(清潔な市場づくり)

- ・市場協力会が中心となって、定められた場所での喫煙の徹底やゴミの散乱防止、廃パレットや廃棄物の適正処理等を進めた。
- ・毎月1回、場内美化日を設定し、市場内外のごみを回収し、環境美化に努めた。
- ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の完全実施に対応するため、施設の整理・整頓を呼び掛け、衛生管理の徹底を促した。
- ・市場敷地内の景観保持のため、月2回程度除草等を行った。

(交流促進と情報発信)

- ・「親しまれる市場づくり」を目指し、場外イベントへの参加及びホームページやSNS等での情報発信を引き続き行った。
- ・市場見学会をはじめ、多くの見学者を積極的に受け入れ、交流を図った(見学者 71 名)。
- ・市場見学会や「いちばの料理教室」の開催等について、ホームページやSNSによる情報発信に積極的に取り組んだ。また、市場の旬の食材の情報発信においては、安全・安心の観点も加えて発信した。さらに、これらの情報について、三重県の関係サイトでの発信を引き続き依頼した。
- ・ホームページやSNSで情報発信した結果、ホームページアクセス数は 14,322 件(前年度比+2,113 件)、SNS交流人口は 10,890 名(前年度比+2,608 名)であった。

(社会貢献活動)

- ・松阪市の津波緊急一時避難ビルとして指定されている津波避難タワーについて、引き続き、地域住民の緊急避難場所として提供した。
- ・市場周辺の清掃活動を行う自治会への支援を行った。

(2)施設の利用状況

(施設利用面積率の向上対策)

- ・施設利用面積率を 90%以上に維持することを目標に、条件を満たした事業者に対し、市場施設利用料金を減免するとともに、新規入場者の確保に向けて、トップセールスなどの誘致活動を引き続き実施した。その結果、関連商品売場棟で利用拡大が 1 件、水産仲卸棟で利用拡大が 2 件、青果保冷配送施設で新規利用及び利用拡大が各 1 件実現した。
- ・年度末の施設利用面積率は、91.7%であった。
- ・現行の施設利用料金を継続するとともに、場内事業者への支援の一環として、令和8年3月の施設利用料金について半額を減免した。

表 施設利用面積率の詳細

(単位: %)

施設名	令和8年3月 31 日利用率	令和7年3月 31 日利用率	令和6年3月 31 日利用率	令和5年3月 31 日利用率	(参考) 平成 21 年3月 31 日利用率
卸売業者売場	100	100	100	100	100
低温売場(青果)	100	100	100	100	100
水産低温売場	100	100	100	100	(平成 22 年 7 月新設)
仲卸業者売場	92.1	88.9	88.9	88.9	53.2
買荷保管積込所	100	100	100	100	82.6
青果保冷配送施設	95.6	75	100	100	100
倉庫	73.9	93.4	93.4	93.4	47.4
冷蔵庫	100	100	100	100	100
関連商品売場棟	66	66	67.5	67.5	60.1
業者事務所	92.1	92.1	96.7	96.7	68.6
金融機関事務所	100	100	100	100	100
加工施設(青果)	100	100	100	100	80.1
水産加工施設	100	100	89.9	89.9	100
施設利用面積率	91.7	91.2	92.4	92.4	—

2 提案型事業の実施状況

(1)ホームページやSNS等を活用した情報発信回数 年間 30 回以上	
	・関連商品売場棟での「にぎわい市場デー」の開催や「いちばの料理教室」の募集、レシピを含む開催結果の報告、市場の安全・安心な「旬の食材紹介」についてのコンテンツ及び市場内外での活性化への取組等について、市場関係事業者等と連携して情報発信に努めた。 ・場外活動に参加した場合にも、その情報を発信することにより、市場のPRを行った。 ・情報発信回数は、年間 54 回であった。
(2)県市場からのごみ排出量を年間 750t以下に維持	
	・「ごみ従量制」の取組を継続するとともに、その運営を円滑に行った。 ・市場協力会の監視活動を強化し、生ごみ、パレット、不燃物の削減に努めた。 ・老朽化していた発泡スチロール減容機を更新し、市場外への排出量削減に努めた。 ・ごみ排出量は、年間 564.2tであった。
(3)HACCPに関連した啓発活動等実施回数 年間 12 回以上	
	・場内事業者や県と連携し、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理等についての啓発活動を実施した。 ・県による食品監視に、当社も同行し、より正確な監視結果や対応策を場内事業者に伝達した。 ・啓発活動等実施回数は、年間 17 回であった。
(4)県市場活性化に向けた県市場関係事業者等との会合等回数 年間 12 回以上	
	・市場の長寿命化、取扱量の拡大、消費者等にかかれた市場づくりなど、市場の活性化に向けて、県市場関係事業者や県との連携を強化するとともに、先進事例の調査研究も行った。 ・経営の強化を図ろうとする市場関係事業者に対して、専門家の知見を活用した実践的な助言・指導等による支援を提供するため、卸売市場・経営層セミナーを開催した(3回)。 ・場内事業者の経営改善を目的として、三重県産業支援センター協力のもと、事業者ごとに個別ヒアリングを実施した。 ・活性化に向けた会合等は、年間 32 回実施した。

3 利用料金の収入の実績

・施設利用料金収入は、計画より 859 万円少ない、1億 7,941 万円となった。また、その他収入は、計画より 369 万円少ない、7,655 万円となった。総収入は、計画より 1,228 万円少ない、2億 5,597 万円となった。 ・なお、令和8年3月は施設利用料金を半額に減免することにより、場内事業者を支援した。減免額の合計は、777 万円となった。 ・施設利用料金の未収額はなかった。
--

4 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:千円)

収入の部			支出の部		
	R6	R7		R6	R7
指定管理料	0	0	事業費	1,237	2,581
利用料金収入	184,492	179,413	管理費	253,858	244,775
その他の収入	81,982	76,557	その他の支出	0	0
合計 (a)	266,474	255,970	合計 (b)	255,095	247,356
収支差額 (a)-(b)	11,379	8,614			

※参考

利用料金減免額	7, 769 千円
---------	-----------

5 成果目標とその実績

成果目標	(1) 県市場施設の活用(施設利用面積率 90%以上) (2) 親しまれる県市場づくり(県市場内外でのイベント等の開催・参加回数 15 回以上) (3) 提案型事業の目標 ア ホームページやSNS等を利活用した情報発信回数 年間 30 回以上 イ 市場からのごみ排出量を年間 750t以下に維持 ウ HACCPに関連した啓発活動等実施回数 年間 12 回以上 エ 県市場活性化に向けた県市場関係事業者等との会合等回数 年間 12 回以上
成果目標に対する実績	(1) 市場施設利用率向上のため、利用料金の 28%軽減措置を継続するとともに、さらなる軽減等について検討し、令和8年3月の施設利用料金の半額を減免した。新規入場者の確保に向けて、特に利用率が低い関連商品売場棟を中心に、トップセールスを行うなど、誘致活動を実施した結果、事業拡大等による利用拡大が実現し、年度末の施設利用面積率は、91.7%であった。 (2) 消費者を対象とした、「にぎわい市場デー」や「いちばの料理教室」を開催し、旬の生鮮食料品への理解を深めた。 また、学生や県民等を対象とした市場見学をはじめ、見学者を積極的に受け入れた。 さらに、場外活動として、「農大祭&西山農業祭り」や「武四郎まつり」に参加・出展し、パンフレットの配布、市場の紹介等のPRを行った。 場内イベント等の開催・参加回数は、年間 25 回であった。 (3) 提案型事業の4項目については、以下のとおりである。 ア ホームページやSNS等を利活用した情報発信回数 年間 54 回 イ 市場からのごみ排出量 年間 564.2t ウ HACCP に関連した啓発活動等実施回数 年間 17 回 エ 県市場活性化に向けた県市場関係事業者等との会合等回数 年間 32 回

今後の取組方針	(1)市場施設利用料金の 28%軽減措置を継続するとともに、さらなる軽減等について検討する。新規入場者の確保に向けて、特に利用率が低い関連商品売場棟を中心に、トップセールスを行うなど、誘致活動を引き続き実施する。 (2)関連商品売場棟の一般開放や「にぎわい市場デー」などのイベントを着実に進めるとともに、市場の安全・安心な「旬の食材」への理解を深める。 また、児童や生徒、消費者等を対象にした市場見学をはじめ、見学者を積極的に受け入れる。 さらに、場外活動として、「農大祭＆西山農業祭り」や「武四郎まつり」に参加・出展し、パンフレットの配布、市場の紹介等のPRを行う。 (3)提案型事業 ア ・関連商品売場棟の一般開放や「にぎわい市場デー」などのイベント、市場の安全・安心な「旬の食材紹介」についてのコンテンツ等を、市場関係事業者等と連携して作成し、発信することにより、当市場のPRや取扱量の拡大等につなげる。 ・場外活動に参加した場合にも、その情報を発信することにより、市場のPRを行う。 イ ・「ごみ従量制」の取組を維持するとともに、その運営を円滑に行う。 ・市場協力会の監視活動を強化し、生ごみ、パレット、不燃物の削減に努める。 ・発泡スチロール減容機を活用し、廃棄量削減に努める。 ウ ・場内事業者や県の関係機関と綿密に連携し、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理等についての啓発活動を継続する。 ・県による食品監視(年間2回)に同行し、より正確な監視結果や対応策を場内事業者に伝達できるよう努める。 エ ・市場の長寿命化、取扱量の拡大、消費者等に関われた市場づくりなど、総合的な市場の活性化に向けて、市場関係事業者や県との連携を強化するとともに、先進事例等の調査研究も行う。
----------------	--

6 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B	・「指定管理者業務計画書」の「管理業務の実施計画」に掲げた管理運営事業の実施に関する業務等、5つの業務(26 細目)全てに取り組むことができた。
2 施設の利用状況	B	B	・施設利用面積率については、91.7%となり、目標の 90%以上を達成した。
3 成果目標及びその実績	B	B	・成果目標に対する実績については、以下のとおり、6項目全てにおいて目標を達成した。 (1)県市場施設の活用(施設利用面積率 90%以上) ⇒実績:91.7%【達成】 (2)親しまれる県市場づくり (県市場内外でのイベント等の開催・参加回数 15 回以上) ⇒実績:25 回【達成】 (3)提案型事業の目標 ア ホームページやSNS等を利活用した情報発信数 年間 30 回以上 ⇒実績:54 回【達成】 イ 市場からのごみ排出量を年間 750t 以下に維持 ⇒実績:564.2t【達成】

			ウ HACCPに関連した啓発活動等実施回数 年間 12 回以上 ⇒実績:17 回【達成】 エ 県市場活性化に向けた県市場関係事業者等との会合等回数 年間 12 回以上 ⇒実績:32 回【達成】
--	--	--	--

※評価の項目「1」
の評価 :

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価 :

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な 評価	・「指定管理者業務計画書」に掲げた全ての管理業務に取り組んだ結果、全ての項目において、目標を達成できた。 ・施設利用料金の軽減を維持するとともに、場内事業者への支援の一環として、令和8年3月の施設利用料金の半額を減免した。また、条例、規則、指定管理者の制定した要領や社内規程に基づき、管理運営業務を公平、公正に行ったことから、運営に関する苦情はなかった。 ・施設の維持管理では、電気機械設備や給水施設等の重要な施設について、専門業者に委託して管理するなど、適正に実施した。 ・小規模修繕工事については、場内事業者が仕事に専念できるよう、特に作業や交通の安全面及び衛生面に配慮するなど、場内事業者からの改修要望等に迅速に対応した。また、経年劣化による施設の不具合や中央監視システム異常のうち緊急を要する場合は、指定管理者として、自力で工事等を実施した。 ・市場活性化委員会などを開催し、場内関係者全体が議論し、合意形成を図り、実行に移していく仕組みづくりを進めることができた。 ・成果目標については、場内での議論、専門家の意見も参考にしながら、目標達成に向け、今後も努力を続けていく。
------------	--

項目	金額	備考
収入	255,970	
施設利用料金	179,413	
その他事業収入	76,557	製氷機利用負担金 600、電気料金 70,672、 水道料金 2,858、駐車場整備協力金 1,661、その他 766
支出	247,356	
人件費	33,019	
警備・施設保守点検等委託料	49,624	警備、設備保守管理、空調設備点検保守、排水管清掃等
小規模修繕費	22,713	
水道光熱費	85,710	上水道:企業庁、下水道:松阪市、電気:中部電力
県有資産所在市町村交付金	13,229	
提案型事業費(除く、人件費)	2,581	
市場協力会運営費	27,900	
その他管理運営費	12,580	
損益	8,614	

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和7年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重びよクエの森(三重県民の森) (三重郡菰野町大字千草字西貝石7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菰野町小島4059)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R7	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、植物の管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見等、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。また、枯損木の処理や外来植物の除去、間伐の実施等、森林環境の適切な管理に努めている。
2 施設の利用状況	A	B			年間の施設利用者数は149,903人で、週末に悪天候が重なった影響により令和6年度実績を下回ったものの、目標(133,000人)を達成している。
3 成果目標及びその実績	A	A			施設利用者の満足度は90.5%(目標80%)、自然体験型イベント参加者の満足度は96.9%(目標92%)となり、ともに目標を達成している。

※「評価の項目」の県の評価 : 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	① 成果目標については、全ての指標で目標を達成している。 ② 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員(常勤3名・非常勤3名)を三重県民の森管理事務所に配置している。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し、適切に対応している。 ③ 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適切に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適切に実施しており、施設利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ④ 「みえ森林教育ステーション」では、季節にあわせた展示等により、県民の皆さんの来場促進に取り組むとともに、木製遊具の定期的な点検を行うなど、安全・安心な利用に向けた運営に努めている。
--------	--

- | |
|---|
| <p>⑤ イベントについては、観察会等の自然体験型イベントのほか、ものづくり、展示会等を121回(このうち自然体験型イベントは103回)開催し、積極的に自然とふれあう場を提供している。また、自然体験型イベント参加者の満足度は96.9%と、高水準を維持している。</p> <p>⑥ 県民等の来園意欲向上を目的として、ホームページの全面リニューアルを行うとともに、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信している。また、ホームページやSNSを通じて、イベント報告や園内の自然の様子等の情報発信を行っている。さらに、菰野町教育委員会に毎週3回、子どもたちへの情操教育の場として園内を提供するとともに、未就学児とその親を対象とする野外保育事業「春さんぽ、秋さんぽ」を開催するなど、森林教育の場としての環境づくりに努めている。</p> <p>⑦ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等を実施している。また、桑名高校の「フクロウ保護プロジェクト」や四日市四郷高校の「カヤネズミの生息調査」に協力するなど生物多様性保全に向けた活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>⑧ 週末に悪天候が重なった影響により、昨年度に比べ施設利用者数は減少したものの、適切な公園管理や参加者のニーズを捉えたイベントの開催等により、令和7年度においても全ての成果目標を達成した。今後も引き続き、施設利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。</p> |
|---|

<指定管理者の評価・報告書(令和7年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

業務執行にあたっては、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員(常勤3名・非常勤3名)を三重県民の森管理事務所に配置した。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し対応を行った。

①三重県民の森管理事業の実施に関する業務

ア) 県民の森の施設及び設備の利用に関する業務

- ・ 園内各施設の団体利用に関しては、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報、受付も行い、事前に施設の情報提供や利用に関する案内を行った。また施設利用者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、施設利用者へのサービスに努めた。
- ・ 菰野町教育委員会へは、毎週3回、子どもたちへの情操教育の場として園内を提供した。また、未就学児とその親を対象とした野外保育事業「春さんぽ、秋さんぽ」を実施した。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では、小さな子を持つ家族でも安全・安心に利用できるような運営に努めた。また、従来の展示鑑賞を目的とした施設利用者に混乱がないよう、広報、案内に努めた。

イ) 自然体験型のイベントの実施に関する業務

- ・ 令和7年度は、121回のイベント(うち自然体験型イベントは103回)を実施した。また、参加者の満足度は全イベントで96.8%、自然体験型イベントでも96.9%となり、前年度同様高水準を維持した。イベントの実施回数は、実施日が悪天候に見舞われて中止になった回数が増え、令和6年度に比べ、およそ半分となった。
- ・ 職員によるイベントを多数実施するとともに、「星空観望会」、「竹細エワークショップ」等、より専門的な知識が必要なイベントは、外部講師や団体と協力して実施した。月1回定例で行った「季節の自然観察会」では、令和6年度と同様に三重県環境学習情報センター、自然観察指導員三重連絡会と共催し、参加者の自然体験だけでなく、自然観察指導員が参加者に自然環境や動植物の説明を行い、参加者同士の交流する場を提供することができた。
- ・ 地域の小学校、保育園、幼稚園、福祉団体等の依頼により、クラフト体験や自然観察会等のプログラムを実施した。
- ・ 小学4～6年生を対象とした自然に触れて学ぶ企画「山猿塾」を月1回開催した。年間を通して同一メンバーで実施し、毎月異なる内容のプログラムに取り組み、遊びと学びを通じた体験を積み重ねることができた。3月には卒業式を行い15名の塾生が卒業した。塾生はもとより保護者の方に大好評であった。
- ・ 「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者とともにつどいの広場付近の木製階段(10段)の補修を行った。園内(ヒノキの森)の間伐材を利用した作業は森林教育としても好評であった。設置場所は施設利用者の目に触れやすい場所にあり、実際に作業をした子どもたちが再来園した際にも非常に喜んでおり、施設に対する愛着を醸成することができた。

ウ) 県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・ 情報の発信の充実や県民等の来園意欲向上を目的として、ホームページの全面リニューアルを行った。当ウェブサイトを通じて、より広報力のある情報発信を心掛けるとともに、タイムリーに情報を発信できるSNSを利用し、イベント報告や開花情報、自然の様子等の情報発信を行った。ウェブサイト・SNSあわせ、228回の更新を行った。Facebookでの評価となる「いいね!」の数は775件となった。
- ・ CTY-FM「こちら北勢よろづ研究所」での毎月のイベント告知や、各イベント前にプレスリリースを発行し、記者クラブや各メディア局へFAXを送信するなど、広報のためにメディアを積極的に利用した。企業とタイアップした太陽の丘の里山再生事業や、つどいの広場のフウの紅葉は、マスコミに取り上げられ多くの人を訪れた。

- ・ イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、イベント情報を中心とするメールマガジンを月1～2回程度配信した。令和7年度は25回配信を行い、登録アドレスは1,993件に増加した。
- ・ 自然学習展示館において、季節の自然の見所を紹介する掲示を行うとともに、ウォーキングマップを2ヶ月ごとに更新し、施設利用者が現地に行って自然を楽しめるよう案内を行った。また、園内パンフレットをリニューアルした。

②施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 植物管理、清掃、日常点検、遊具・建物施設の定期点検、巡回警備、修繕業務等により、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適切に保持するとともに、異常箇所の早期発見により、施設利用者が安全・安心に利用できるよう努めた。
- ・ 植栽木の管理については、適切な時期に剪定を行い良好な景観を維持することができた。
森林内の植生管理については、大径木の枯損木が多くなっているため、危険のないよう早めに伐倒処理を行った。また、植栽木から繁殖し自生の植生を圧迫している外来植物を間引き、森林環境の回復、保全に努めた。ヒノキの森においては、「認定特定非営利活動法人森林の風」に委託して間伐を行い、適切な人工林の維持に努めた。つどいの広場周辺は、カヤネズミが生息していることから、保護目的で一部草原を残した。また、昨年度に引き続き、トンボ池周辺は、生物多様性の観点から一部草原を残した。
- ・ マツクイムシの影響で枯れた樹高の高いアカマツについて、6本伐倒した。アカマツについては、今後も病変等に十分注意して管理していく。
- ・ 開園から45年を経ているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕する必要がある箇所が増加すると思われる。専門的な技術が必要となるアスレチック遊具の修繕については業者委託し、各所の階段や看板等大規模でない修繕は職員で行った。
令和7年度は、Cコースの慕情の滝付近で斜面崩落があり、今後も崩落するおそれがあったため、安全なルートを選定し、迂回路の整備を行った。今後予想される異常気象の対策として、局地的豪雨による浸食を少しでも軽減させるための数か所の水みち、土留めの構築作業を行った。
- ・ 今後補修が必要な箇所として、未補修のアスレチック遊具、遊歩道の階段や手すり、藤棚、あさけの流れにかかる橋等がある。老朽化が進んでいるため、危険がないか注視し、必要に応じて供用中止等の措置を行う。

③県施策への配慮に関する業務

- ・ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護・調査や外来生物の駆除等を行い、生物多様性が保全された森林公園をめざした。桑名高校生物部の生徒が取り組む「フクロウ保護プロジェクト」にも引き続き協力し、園内に設置した巣箱からは2羽のフクロウを巣立たせることができた。また、今年度初めて四日市四郷高校生物部の生徒とともにカヤネズミの生息調査を行った結果、つどいの広場付近において、使用している巣を1つ確認することができた。当公園は、既存の保護区にとらわれない柔軟な地域保全を可能にする、生物多様性保全の新たな枠組みである「OECM」外ではあるが、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際目標である「30by30」の目標到達に向け、今後も微力ながら取り組んでいく。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では、県産材でできた遊具や木のおもちゃの提供とともに、季節の自然に合わせた展示を行い、楽しみながら森林や木に親しんでもらえる運営を行った。SNSによる情報発信で知名度が向上し、平日でも予約が一杯になる日が多くなった。
- ・ カウンター前の看板を四日市中央工業高校の生徒が新たに制作したものに交換した。
- ・ 自然観察系のイベント実施の際は、イベント告知時にホームページで「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという「ワンヘルス」の考え方を紹介するとともに、イベント冒頭には「ワンヘルス」の概要説明を行い、参加者への普及啓発に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 「三重県民の森の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和7年度請求件数:0件

⑤その他の業務 令和7年度における事故・事件は、4月にちびっこ広場において、職員の墜落事故があった。 (1件)				
(2)施設の利用状況				
年間の施設利用者数	成果目標 133,000人	令和6年度実績 164,547人	令和7年度実績 149,903人	達成率 112.7%
顧客満足度	成果目標	令和6年度実績	令和7年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	91.0%	90.5%	113.1%
② 自然体験型イベント参加者	92%	97.0%	96.9%	105.3%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所では利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R6	R7		R6	R7
指定管理料	25,826,000	25,778,000	事業費	2,497,640	2,985,029
利用料金収入			管理費	24,819,258	24,071,745
その他の収入	1,589,328	1,667,884	その他の支出	0	0
合計 (a)	27,415,328	27,445,884	合計 (b)	27,316,898	27,056,774
収支差額 (a)-(b)	98,430	389,110			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	133,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	149,903人	90.5%	96.9%

今後の取組方針	・施設利用者数について 悪天候による影響を大きく受け、令和6年度より約1.4万人減少となった。公園利用者の低年齢化が進んでいる状況をふまえ、今後は子育て世代を主なターゲットとして利用の促進を図っていききたい。また、「みえ森林教育ステーション」の利用者が当公園全体の施設利用者数の増加に寄与していることから、より広く広報を行っていく。 ・施設利用者の満足度について 自然管理については、利用者アンケートにおいて満足度が高い。これは森林部分において自生の植生を保護し、公園部分について植栽木を適切に管理するなど、良好な景観の維持に努めた結果だと考える。一方、施設管理については、自然管理に比べ満足度が低い傾向が見られる。特に、老朽化している屋外トイレの評価が低いほか、その他の施設についても老朽化が進んでいることが影響していると考えられるため、今後もしできる限りの補修、改修を進めていきたい。 ・イベントについて 悪天候のためイベント実施回数は減少したものの、新たに乳幼児向けのイベントを実施するなど、多くの施設利用者に自然体験を楽しんでいただくことができた。自然体験については、観察会の依頼や参加者数の増加等、ニーズが高まっていると考えられるため、今後もさまざまな形で自然体験を提供していく。 昨年度から開催している「山猿塾」は内容を刷新し、子どもたちが主体的に企画・実践する新たな取組を行った。その結果、子どもたちの主体的な発想や関与が増え、参加者の満足度向上につながった。子どもたちのみならず、保護者からも高い評価を得ており、家庭内での会話の増加といった波及効果もあった。本事業は、今後対象年齢層の拡大を図りながら、継続的に実施していく。 月1回の定例で行った「季節の自然観察会」や「星空観察会」は、毎月参加するリピーターもいるほど、定期的に公園を訪れるファン層を増やすことにつながっている。今後も引き続きこうした定例イベントを開催し、ファン層の拡大を図る。 ・自然環境について 園内の森林管理については、間伐を実施し森林内の適切な明るさを確保するとともに、外来の植物を間引くなど本来の自然植生を維持する管理を行った。今後も希少な動植物の保護管理活動を継続し、減少著しいトンボ類の復活に向けてトンボ池の外来種駆除に取り組む。また、希少植物のキンランやササユリ等のマーキング調査を実施するとともに、高校生が取り組む「フクロウの保護プロジェクト」、「カヤネズミ生息調査」に引き続き協力していく。 ・セルフガイドの充実 利用者が散策しながら自ら自然のことを学ぶセルフガイドシステムの効果的な運用に向けて、古くなり見えにくくなった園内の案内看板を新しく作り替えた。今後は、多言語化した看板設置にも取り組む。また、公園を楽しむツールとして、ボールやバドミントンセット等物品の貸し出しなども行う。 ・ボランティアについて ボランティアグループである「モリメイト」は、親子連れや若者層等幅広い年代の新規会員の加入により活動の活性化・充実が図られた。今後も楽しみながら公園の管理に取り組む活動を行うとともに、昨年設定した「モリメイトの森」の区画を維持整備できるよう、継続してボランティア募集を行う。
----------------	---

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所等の早期発見等、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	B	年間の施設利用者数は、令和6年度実績を下回ったものの、目標を上回る149,903人(112.7%)となった。
3 成果目標及びその実績	A	A	施設利用者の満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」
の評価：

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	施設利用者数は令和6年度実績を約1.4万人下回った。平日は、年間通して昨年度とほぼ変わらない施設利用者数であったが、土日祝日における悪天候が影響し、令和6年度と比較して約8割に留まったことが施設利用者数減少の原因となった。 自然体験型イベントについては、開催数は現状を維持しながら、内容の刷新を図る。施設利用者の低年齢化が進んでいることをふまえ、子育て世代をはじめとする若い家族層も楽しめる内容を充実させ、リピーターの獲得・拡大につなげていく。 「みえ森林教育ステーション」については、SNSによる情報の拡散により、若い世代の親子連れの利用が増加している。こうした動向を当公園に取り込み、安全・安心に利用してもらえるような運営に取り組むとともに、当公園の魅力である広々とした森林等既存の施設と組み合わせることで、乳幼児から小・中・高校生までの効果的な森林教育、体験が可能なプログラムやキットの開発につなげ、将来の森林関係に携わる人材の育成を行っていく必要がある。 開園45年を迎え、園内全体において施設および設備の老朽化が進行しており、管理運営上の課題となっている。近年の施設利用者数の増加傾向をふまえると、安全性・利便性の観点からも、県との情報共有を密にしながら、計画的な対応を検討していく必要がある。 長年にわたり形成された園内の森林環境は、当公園の重要な価値・資源となっている。今後もこの特性を生かしつつ、多様な視点を取り入れた運営を行い、さらなる魅力向上に努めていく。
--------	---

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名： 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重びよクエの森(三重県民の森) (三重郡菰野町大字千草字西貝石7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菰野町小島4059)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者 の自己評価	県の 評価	全期間におけるコメント
R3	B		5年間の管理期間を通して、定期的な施設巡回による異常個所の早期発見に努めるとともに、公園内の森林、植栽木、芝生等の植物管理、遊具・建物施設の保守点検、環境美化等の管理業務を適切に実施した。
R4	B		
R5	B		
R6	B		
R7	B		

3 施設の利用状況

	指定管理者 の自己評価	県の 評価	全期間におけるコメント
R3	A		ホームページやSNS、地元ラジオ局CTY-FM等を通じて、イベント報告や園内の自然の様子等の情報発信を行った。また、「山猿塾」等参加者のニーズを捉えたイベントを数多く開催し、施設利用者の増加につなげた。5年間の管理期間を通して、年間の施設利用者数は、毎年目標値以上となった。
R4	A		
R5	B		
R6	A		
R7	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

収入の部		支出の部	
指定管理料	123,928,000	事業費	14,051,291
利用料金収入	0	管理費	118,004,744
その他の収入	7,037,498	その他の支出	0
合計 (a)	130,965,498	合計 (b)	132,056,035
収支差額 (a)-(b)	△1,090,537		

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の 自己評価	県の 評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標 項目	目標値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値
R3	A		年間の施設 利用者数	133,000人	182,833人	183,139人	159,503人	164,547人	149,903人
R4	A		施設利用者の 満足度	80%	87.4%	89.6%	89.5%	91%	90.5%
R5	B		自然体験型 イベント参加 者の満足度	92%	96.8%	96.2%	95.9%	97%	96.9%
R6	A								
R7	A								
全期間におけるコメント									
5年間の管理期間を通して、3つの成果目標項目全てで目標値を達成した。									

6 総括評価

●業務執行にあたっては、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員（常勤3～4名・非常勤3名）を三重県民の森管理事務所に配置した。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し対応を行った。 ●定期的な施設巡回により異常個所の早期発見に努めるとともに、公園内の森林、植栽木、芝生等の植物管理、遊具・建物施設の保守点検、環境美化等の管理業務を適切に実施し、施設の安全・安心な利用環境や快適性の維持に努めた。 ●「みえ森林教育ステーション」では、木製遊具の定期的な点検を行うなど、安全・安心な利用に向けた運営を行った。 ●施設利用者数については、ホームページやSNSによる積極的かつタイムリーな広報に努めるとともに、参加者のニーズを捉えたイベントの開催等により、目標値を達成した。 ●「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等生物多様性の保全に向けた取組を積極的に実施した。また、高校の生物部が実施する「フクロウ保護プロジェクト」等に協力した。 ●5年間の管理期間を通して適切な施設管理に努めるとともに、3つの成果目標項目全てで目標値を達成したことを評価する。令和8年度以降も指定管理者に指定されており、これまでの実績を最大限に生かしながら、さらなる利用者の増加や満足度の向上に向けて取り組まれない。また、招致を予定している令和13年全国植樹祭の気運醸成に向けて、積極的に取り組まれることを期待する。

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和7年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	伊賀上野びよクエの森(三重県上野森林公園) (伊賀市下友生字松ヶ谷1)
指定管理者の名称等	NPO法人ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菰野町小島4059)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 2 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他森林公園の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R7	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、植物の管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見等、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。また、枯損木の処理等、森林環境の適切な管理に努めている。
2 施設の利用状況	A	A			年間の施設利用者数は126,167人、目標達成率は153.9%で、過去最高となった。
3 成果目標及びその実績	A	A			施設利用者の満足度は93.8%(目標80%)、自然体験型イベント参加者の満足度は96.1%(目標92%)となり、ともに目標を達成している。

※「評価の項目」の県の評価 : 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	① 成果目標については、全ての指標で目標を達成している。 ② 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員(常勤3名・非常勤3名)を森林公園管理事務所に配置している。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し、適切に対応している。 ③ 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適切に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適切に実施しており、施設利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ④ イベントについては、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、107回(このうち自然体験型イベントは103回)開催し、積極的に自然とふれあう場を提供している。また、自然体験型イベント参加者の満足度は96.1%と、高水準を維持している。
--------	--

- | |
|---|
| <p>⑤ 県民等の来園意欲向上を目的として、ホームページの全面リニューアルを行うとともに、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信している。また、ホームページやSNSを通じて、イベント報告や園内の自然の様子等の情報発信を行っている。さらに、伊賀地域の小学校やこども園等の子どもたちを対象とした自然体験プログラムを開催するなど、森林教育の場としての環境づくりに努めている。</p> <p>⑥ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の保全に努めている。</p> <p>⑦ 適切な公園管理や参加者のニーズに沿ったイベントの開催等により、令和7年度においてもすべての成果目標を達成し、特に「年間の施設利用者数」は、過去最高となった。今後も引き続き、施設利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。</p> |
|---|

<指定管理者の評価・報告書(令和7年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

業務執行にあたっては、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員(常勤3名、非常勤3名)を森林公園管理事務所に配置した。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し対応を行った。

①三重県上野森林公園管理事業の実施に関する業務

ア)三重県上野森林公園の施設及び設備の利用に関する業務

- ・ 自然情報や公園利用に関する問合せに対応し、園内のさまざまな植物の開花状況の提供や散策ルート等の提案を行った。また、電話やメールによる各種問い合わせの対応を行うとともに、イベント申込の利便性を高めるため、スマートフォンやパソコンから自動受付できる予約サイトの運営を行った。
- ・ 園内各施設の団体利用に関して窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報や受付も行い、事前に施設の情報提供や利用方法の案内を行った。また、施設利用者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、施設利用者へのサービスに努めた。
- ・ ビジターコテージ展示室では、図書コーナーとキッズコーナーを設置し、木製の遊具を設けたことで、館内の滞在者数、滞在時間ともに増加し、好評を得ることができた。また、本物の生きものを間近で見ってもらう機会を拡充するため、両生類や昆虫類の飼育技術を持ったスタッフが中心となり、さまざまな生きものの生体展示を行った。具体的には「アカハライモリ」(4～3月)、「アズマヒキガエル」(4～3月)、「ヤマトサンショウウオ」(4～3月)、「カブトムシ」(7～8月)、「シュレーゲルアオガエル」(4～11月)、「タガメ」(9～11月)等の生体展示を行った。特に、ビジターコテージ玄関口に設置している「アズマヒキガエル」の展示は、スタッフ管理のもと給餌体験ができる展示となっており、子どもから大人まで多くの施設利用者に好評であった。その他、季節ごとに「春の公園スケッチ展」(4月)、「森林テラス絵画展」(4～5月)、「地球温暖化防止ポスター作品展」(3月)等を開催した。
- ・ ビジターコテージホールでは、四季折々の装飾や展示を通じて施設利用者に季節感を楽しんでもらえる工夫を凝らした。門松やお花見、七夕、ハロウィン、クリスマス等、年中行事に合わせた演出は、多くの施設利用者から高い評価を得ている。こうした継続的な取組により、施設への親しみが深まり、リピーターの増加にもつながった。
- ・ ビジターコテージ周辺では、ハンモックやトランポリン、木のおもちゃ、草滑りのほか、季節ごとに異なる遊びや発見が楽しめる「自然素材のあそび場」等を設置し好評を得た。田んぼビオトープでは、稲の成長過程やメダカ、オタマジャクシ等の観察に加え、生き物に関する解説パネルの設置や、生き物の様子を収めた動画のSNS発信等、関心がより深まる工夫をした。これらの取組により、子どもだけでなく、大人の施設利用者も長く滞在し、多世代が思い思いに過ごす姿が多く見られるようになった。
- ・ くつろぎのスペースづくりでは、これまでのビジターコテージのテラスや前庭、陽だまりの丘、森の林縁部、サギソウ園等にガーデン家具を設置し、季節ごとに最適な「くつろぎ方の提案」をSNSや通信誌等で発信した。これにより、施設利用者が自分のお気に入りの場所を見つけて楽しむ様子が増え、施設利用者同士の交流や読書、エクササイズ等、過ごし方の多様性が促進された。また、園内での滞在時間が延びる傾向も見られ、「くつろぎの公園」としての利用の定着が進んだ。
- ・ 過去に設置した園内の案内板について、令和7年度は、視認性の向上を目的とした改良を行うとともに、老朽化が目立つ案内看板についても段階的な入れ替えとメンテナンスを実施した。また、老朽化した北入口駐車場の大型看板2箇所についてもリニューアルし、多言語(4か国語)の案内ボードを設置した。その結果、園内全体の景観がより整い、施設利用者の回遊性と満足度の向上につながった。

- ・セルフ(来場者自身)で公園を楽しめるプログラムとして、「ハンモック」や「双眼鏡」等の無料貸出を実施した。これらの取組は、親子連れや大人の施設利用者に変好評を博し、公園に新たな魅力を付加することにつながった。
- ・セルフ(来場者自身)で散策する施設利用者の増加に対応する取組として、令和6年度に引き続き、季節ごとの見どころを紹介するセルフガイドボードを年間累計で約50箇所を設置し、内容の充実を図った。施設利用者からは「ボードを読んで自然への興味が深まった」といった声も多く寄せられた。また、公園のシンボルであるサギソウの開花時期には、令和6年度に引き続き大駐車場からサギソウ園までの道標を設置し、初めての方でも迷わずアクセスできるよう配慮したことで、多くの施設利用者が花の観賞を楽しむ様子が見られた。
- ・ビジターコテージ研修室及びサブコテージの有効利用として、イベントで使用しない空き時間に部屋の貸し出しを行い、合計66回の利用があった。また、屋外フィールドについても自然体験活動や団体利用を目的とした利用が63件あった。

イ) 自然体験型のイベント及びプログラムの実施に関する業務

年間107回のイベントを実施し、そのうち自然体験型イベントは103回実施した。参加者の満足度は全体で96.2%、自然体験型イベントに限っても96.1%と、令和6年度と同様高水準を維持した。これは、対象者のニーズに応じた内容の充実や、季節ごとの自然を活かした多様なプログラムの展開が要因と考えられる。

イベントの実施回数は令和6年度に比べてやや減少したが、より高品質なプログラムの実施に注力した。また、外部人材との連携を推進し、特に音楽やアート、ヨガ等専門性を持つ講師を迎えることで、多彩なプログラムの展開が実現した。

・ 自然体験イベント

令和6年度に引き続き、伊賀や三重の自然の面白さや大切さを感じられるプログラムを開催し、特に直接生きものとふれあえる機会を多く持ってもらえるよう企画した。具体的には、「乗馬体験」(4月)、「田んぼの生きもの観察会」(6月)、「セミの羽化観察会」(7、8月)等のイベントを実施した。これらのイベントは申込が多く、満足度も高かったことから、参加者のニーズと学習効果の高さを再確認できる結果となった。また、外部講師を招いた「曼荼羅アート」(5月)、「秋のキノコ観察会」(9月)、「星空観察会」(11月)等も開催し、専門家から、情報や面白さ、新しい視点等を直接得ることができると好評であった。こうしたプログラムを通じて、子どもたちだけでなく、大人にも自然への興味と理解が広がる機会となり、地域全体の自然への関心を高めることに貢献した。

・ 生き物の観察イベント

令和7年度より、季節ごとの生きものの移り変わりを学び、身近な自然への興味・関心を育むことを目的とした定期的なイベント「ガサゴソ生きもの探検隊」を9回開催した。各回園内を歩きながら季節の生き物を探し、発見した生き物の観察や解説を行った。夏にはライトトラップ、冬には朽木割り等、季節に応じた手法を取り入れ、多様な生き物の観察の機会を提供した。また、捕獲方法だけでなく、飼育方法や標本の作り方についても学ぶ機会を設け、イベント後も家庭で生き物を観察できるよう工夫した。参加者の半数以上がリピーターであり、中には全ての回に参加する参加者もいた。回を重ねるごとに、自ら積極的に生き物を探し、観察した内容を他の参加者と共有する参加者が増えるなど、生き物への関心を高める機会を提供できた。継続参加によって知識や経験が積み重なり、活動の中で成長していく様子がうかがえるプログラムとなった。

・ 近隣の住民や団体、専門家との共同イベント

「桜の丘で馬に乗ろう」(4月)、「春のスケッチ教室」(4月)、「新緑の森 曼荼羅アート」(5月)、「秋のキノコ観察会」(9月)、「ハーブとコーヒーの饗宴」(10月)、「秋の星空観察会」(11月)等のイベントを開催した。ボランティアグループである「モリメイト」と協力し、「くぬぎの森づくり」(11月)、「カブトムシのための落ち葉ベッド作り」(12月)、「しいたけ菌打ち体験」(2月)を開催した。また、近隣小学校(9、10、11月)や富貴の森こども園(8月)に対して、ネイチャークラフト等の自然体験プログラムを行った。近隣住民、地域団体、専門家等との協働により、今年度も多彩なイベントを実施することができた。自然観察や生活文化、アート等、さまざまな切り口から自然に親しむ機会を提供し、「モリメイト」や近隣小学校、こども園と連携し、地域の子どもたちが自然とふれあう機会の充実も図ることができた。これらの取組により、地域と連携しながら子どもたちが育つ場としての公園の役割を高めることができた。

・ 子どもが地域の自然環境に興味関心を持つきっかけを広く提供するイベント

「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ」事業では、伊賀市の小学校、保育園、市民センター等を対象に15回の自然体験プログラムを開催し、計554名の子どもたちに自然体験の機会を提供した。地域の子どもたちにとって、地元の里山の自然にふれる本事業は、自然への興味や親しみを育む貴重な機会となった。学校や保育園では得がたい体験を提供できた点でも意義は大きく、参加した教員からは、「普段の保育や授業ではなかなかできない体験をさせることができた」「子どもたちにとって大変印象深い学びの機会になった」といった声が寄せられた。

- ・「外国にルーツのある子ども」や「発達障がいを持つ子ども」を対象にしたイベント

多言語での対応や障がいの状況に応じた配慮を行い、発達障がいを持つ子どもの保護者会との共催による「虹の森のゆうえんち」(4・12月)を開催した。普段は交流の機会が少ない層同士が自然体験を通して楽しくふれあい、相互理解を深める貴重な機会となった。こうした取組は、多様な背景を持つ子どもたちが自然の中ででのびのびと自己表現できる場づくりに寄与した。また、この機会をきっかけとして、発達障がいを持つ子どもや外国籍の親子が他のプログラムへ参加するようになるなど、公園利用の広がりにもつながった。

- ・「森林とふれあう自然公園環境整備事業」によるイベント

「みえ森と緑の県民税」を活用した「森林とふれあう自然公園環境整備事業」を受託し、「親子で大工体験」(1月)を開催した。大工の指導のもと、参加者が協力して木柵やテーブルセットを設置したことから、公園に残るものを自分たちの手で製作できたと好評であった。

ウ)公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・情報発信の充実と県民等の来園意欲向上を目的として、ホームページの全面リニューアルを行った。公園に来たことがない方にも園内の自然環境や過ごし方を具体的にイメージしていただけるよう、写真やおすすめスポットの紹介を充実させた。また、リピーターの利用者の増加に向けて、旬の自然情報や見頃の植物、季節ごとの楽しみ方が分かりやすく伝わるよう情報を整理した。さらに、オンラインでイベントの参加申込ができるよう改善し、利用者目線での情報アクセス性と利便性の向上を図った。
- ・SNS等を利用した情報発信に努め、ウェブサイト、Facebook及びInstagramをあわせて334回の更新を行った。
- ・イベント情報を中心とするメールマガジンを、イベント参加者やウェブサイトからの希望者に、原則月1回配信した(682件)。
- ・伊賀ケーブルテレビにおいて、公園の自然情報やイベント等について27回取り上げてもらった。また毎月発行される情報誌に公園の自然情報を掲載し、公園の認知度の向上が図られた。その他、新聞社から、自然情報やイベント等の取材が16回あった。
- ・イベントや季節の自然情報を掲載した「上野森林公園通信」(A4フルカラー)等を伊賀市内の小学校の全児童へ1～2ヶ月に1回配布を行い、近隣地域に積極的に情報を発信した。令和7年度は全7回の配布(累計約31,500部)となった。

②施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・植物管理、清掃管理、日常点検、建物施設等の定期点検、巡回警備、修繕業務等により、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適切に保持するとともに、異常箇所の早期発見により、施設利用者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・植栽木は、適切な時期に剪定を行うことにより良好な景観の維持に努めた。日常的にウォーキング等で訪れる施設利用者からは「生垣の形が整い生育が良くなった」という声が多く寄せられた。また、定期的な施肥により花木の花付きも向上した。森林内の植生管理においては、マツノマダラカミキリによるアカマツの枯死被害木を対象に、100本以上を伐倒処理した。

- ・花のテラスの花壇では、四季ごとにさまざまな草花を楽しめるよう育成管理を行い、「パタフライガーデン」をテーマに整備を進めた。シカの食害が少ないジギタリスやサルビア、セージ、ラベンダー等を中心に植栽し、通年を通して花壇を彩ることができた。実際に多くの昆虫が花々に集まり、カメラマンが昆虫撮影のために訪れるなどの効果も見られた。
またビジターコテージのテラスではシカの食害を受けないため、プランターにチューリップやペチュニア等季節ごとの花を育てた。それらの花を愛でながら休憩する方や、花を前に記念撮影する家族等、施設利用者がコテージ周辺で思い思いに過ごす空間づくりにつながった。
- ・園内設備について、建設から27年経過しているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕の必要箇所が増加すると思われる。公園内に多数ある木柵、木道、木階段等については補修が必要な箇所の発生ごとに、随時補修作業を進めている。

③県施策への配慮に関する業務

- ・「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等に努めた。具体的にはハッチョウトンボ等貴重な水生昆虫が生息しているトンボ池に侵入したアメリカザリガニの駆除活動を行った。また、生物多様性の普及啓発に努めたほか、「みえ森林教育ビジョン」の推進に向けて、子育て支援団体と協力し、「てくてく探検隊」を年間22回開催した。これらの取組により、地域の生物多様性の保全とともに、自然体験を通じた子どもの豊かな成長を支援する体制づくりを進めた。特に「てくてく探検隊」は、子どもたちの情操や感性を育む自然保育の場として保護者から高い評価を受けており、あわせて保護者同士のつながりを生む大切な場としても機能を果たした。
- ・自然観察系のイベント実施の際は、イベント告知時にホームページで「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという「ワンヘルス」の考え方を紹介するとともに、イベント冒頭には「ワンヘルス」の概要説明を行い、参加者への普及啓発に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県上野森林公園の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和7年度請求件数:0件

⑤その他の業務

- ・令和7年度において事故は発生しなかった。

(2)施設の利用状況

年間の施設利用者数	成果目標	令和6年度実績	令和7年度実績	達成率
	82,000人	121,980人	126,167人	153.9%
顧客満足度	成果目標	令和6年度実績	令和7年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	94.4%	93.8%	117.3%
② 自然体験型イベント参加者	92%	96.1%	96.1%	104.5%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R6	R7		R6	R7
指定管理料	29,702,000	29,659,000	事業費	4,026,444	3,681,869
利用料金収入			管理費	27,075,080	26,395,871
その他の収入	1,403,996	1,103,456	その他の支出	0	0
合計 (a)	31,105,996	30,762,456	合計 (b)	31,101,524	30,077,740
収支差額 (a)-(b)	4,472	684,716			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	82,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	126,167人	93.8%	96.1%
今後の取組方針	・施設利用者数について 利用者数は目標値82,000人に対し126,167人となり、達成率は153.9%と目標を大きく上回り、過去最高となった。施設利用者のニーズを意識し、広報や受入環境の充実に取り組んだことで、従来の主な利用層である高齢者に加え、女性や若年層、親子連れ、外国人等、幅広い層の利用が増えている。加えて、ペットとともに自然の中で過ごしたいという需要を背景に、犬を連れた来園も引き続き増加しており、日常的に公園を利用する人同士の交流も活発化している。こうした変化から、公園が多様な人々にとって身近で利用しやすい場として浸透してきていることがうかがえる。今後もこれまでの取組を丁寧に継続しながら、さらなる利用促進を図る。 ・施設利用者の満足度について 施設利用者の満足度は、目標値80.0%に対し93.8%となり、達成率は117.3%と高水準を維持した。豊かな自然環境に加え、快適に過ごせる環境整備を進めるとともに、施設利用者の立場に立った運営を行ってきたことが、高い評価につながった。施設の適切な維持管理やスタッフの対応に加え、ビクターコテージでの季節ごとの展示、生きもの展示、多彩なイベント等についても好意的な評価が得られており、公園の魅力向上に向けた取組が着実に成果を上げている。今後も、施設利用者の意見や要望をふまえながら、自然体験や交流機会のさらなる充実を図り、快適な利用環境の整備と施設利用者目線の運営を通じて、満足度の維持・向上に努めていく。 ・イベントについて 自然体験イベント満足度は、目標値92%に対し96.1%となり、達成率は104.5%と高水準を維持した。これまで継続して実施してきた「こどもの主体性を育むプログラム」や「多様な背景を持つ参加者に自然体験の機会を提供する取組」、「外部講師を招いて実施する音楽やアート等感性に働きかける体験プログラム」についても、自然との多様な関わり方を提供する取組として評価されており、公園の魅力向上に寄与してい		

る。さらに、北欧の教育やライフスタイル等、海外の先進事例を視野に入れた企画についても継続することで、「自然との共生」や「ウェルビーイング」をテーマとした学びの機会として広がりを見せている。今後は、これらの継続的な取組をさらに発展させるため、音楽・芸術・環境・教育等の多様な分野における外部講師等との連携を一層深めるとともに、大人を対象とした講座の充実にも努めていく。また、住民参加による環境再生の取組等を通じて、地域とともに自然を育てる体験の場を広げ、公園を拠点とした学びと実践の機能向上を図っていく。

・セルフサービスの充実

施設利用者から好評を得ている「セルフガイドシステム」の内容を、季節変化や自然情報と連動させながら継続的に更新し、さらなる充実を図る。双眼鏡やハンモック等の貸出ツールの活用、セルフ型（施設利用者自身で楽しむ形）のウォークラリーの定期開催等により、セルフスタイルで公園の自然を満喫し、多様な楽しみ方を自由に選べる場づくりを推進していく。

・公園利用方法の提案

季節ごとの見どころや散策コース、公園の楽しみ方等について継続的に情報発信を行い、多様な利用者に向けた公園利用の提案を進めた。また、「ペットと散策できる自然公園」としてのPRについても継続し、犬連れの施設利用者に対する訴求を図った。今年度は、ホームページの全面リニューアルを実施し、公園の魅力や利用方法、過ごし方をより分かりやすく伝えられるよう情報発信基盤の強化を図った。これにより、施設利用者が公園の利用イメージを持ちやすくなり、多様な利用方法で楽しむ姿が確認できた。また、SNSを活用した情報発信についても継続し、若年層を含む幅広い利用者層への訴求を進めた。今後は、リニューアルしたホームページの内容充実を図るとともに、日本語・英語・ポルトガル語、ベトナム語による多言語対応を進めることで、外国人利用者を含むより多様な層に向けた情報提供を強化し、公園の利用促進につなげていく。

・自然環境について

園内は湿地が多く、特殊な環境にしか育たない希少な動植物が多数生息している。その中で外来種の侵入や遷移等の影響により、湿地環境が悪化している場所も多く存在する。そのため外来種の駆除や湿地環境の整備、園内の希少種や在来動植物群の再生を継続的にやっている。

湿地の再生活動は住民参加型イベントとして企画し、参加者とともに湿地の生物調査や湿地の環境改良を行っている。具体的な取組としては「ザリガニハンターズ」（8月）、「ビオトープを作ろう！」（5、11月）を開催した。これらの活動自体が参加者の学びや交流の場へと醸成され、ひいては、環境保全活動の実践の場へと発展させることをめざしていく。

・公園の景観について

「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」というテーマを継続し、特に施設利用者から要望の多い老朽化した各種案内看板や既設ベンチのリニューアル、修復作業を随時進める。花のテラスについては、シカによる食害が少ない品種を中心に育成するとともに、「昆虫が集まるバタフライガーデン」というコンセプトを取り入れ、四季折々に華やかで生きもののふれあいも楽しめるような管理を行う。

・ボランティアについて

ボランティアグループである「モリメイト」については、引き続き広く広報するとともに、楽しめる活動を行うことで会員を増やしていく。特に、若い世代の加入者を増やし、活動の活性化をめざす。

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見等、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間の施設利用者数は、目標を上回る126,167人(153.9%)となり、過去最高となった。
3 成果目標及びその実績	A	A	施設利用者の満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」
の評価：

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価：

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	令和7年度は、施設利用者数が過去最高を記録した。日々の丁寧なフィールドの維持管理を土台に、施設利用者一人ひとりが心地よく過ごせる環境づくりや、当公園ならではの自然の魅力の発信を積み重ねてきたことが、多くの方に公園を身近に感じていただくことにつながったものと考えている。利用の広がりとしても、従来の主な利用層である高齢者に加え、親子連れや女性、若い世代、外国人、犬連れの施設利用者等、多様な方々の姿が見られるようになり、公園がさまざまな人の憩いの場として定着してきていることを実感する一年となった。 園内では、ビジターコテージにおける生きもの展示や季節展示、木のおもちゃや自然素材を活かしたあそび場づくり、ガーデン家具を用いたくつろぎ空間の整備、セルフガイドボードや貸出備品による自由な楽しみ方の提案等を通じて、施設利用者がそれぞれのペースで自然に親しみ、思い思いの時間を過ごせる公園づくりを進めた。ベンチやテーブルでゆったりとくつろぐ人、犬とともに散歩する人、草花や生きものに足を止める親子等、園内のあちらこちらで、人と自然、人と人との緩やかなつながりが生まれており、公園が地域の中で安心ややすらぎを得られる場として機能していることを示している。 イベントは、年間107回実施し、参加者満足度も引き続き高い水準を維持することができた。特に、継続型プログラム「ガサゴソ生きもの探検隊」では、参加者が回を重ねるごとに主体的に生きものを探し、見つけたことを他の参加者に共有し、学びを深めていく姿が見られた。また、地域の団体や専門家との協働による多様な企画に加え、外国にルーツのある子どもや発達障がいのある子どもを対象とした取組も継続し、多様な背景を持つ人たちが自然の中で安心して過ごし、自分らしく参加できる場を広げることができた。こうした取組は、自然を媒介として一人ひとりの「ウェルビーイング」を育む機会の創出につながった。 自然環境の保全についても、湿地や里山の環境を守り育てるため、外来種の駆除や環境整備、生物多様性の保全に継続して取り組んだ。これらの活動を、市民参加型のイベントや体験の機会と結びつけて行うことで、公園の自然を「守られるもの」としてだけでなく、「ともに関わり、育てていくもの」として感じてもらう機会となった。公園の自然や風景、そこに生息する生きものが、施設利用者にとって親しみと愛着の対象となりつつあることは、地域の中での公園の価値をより豊かなものにしている。 今後も、これまで育んできた地域とのつながりをさらに深めながら、公園の新たな可能性を広げていきたいと考えている。これからも当公園が、自然を媒介として「安心」「学び」「つながり」を育み、人々の「ウェルビーイング」の向上に寄与する場であり続けられるよう努めていきたい。そ
--------	--

	して、「まちのオアシス」というテーマを大切にしながら、人と自然、人と人との穏やかにつながり合う場を丁寧に育んでいきたい。
--	--

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名： 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	伊賀上野びよクエの森(三重県上野森林公園) (伊賀市下友生字松ケ谷1)
指定管理者の名称等	NPO法人ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菰野町小島4059)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 2 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他森林公園の管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者 の自己評価	県の 評価	全期間におけるコメント
R3	B		5年間の管理期間を通して、定期的な施設巡回による異常個所の早期発見に努めるとともに、公園内の森林、植栽木、芝生等の植物管理、遊具・建物施設の保守点検、環境美化等の管理業務を適切に実施した。
R4	B		
R5	B		
R6	B		
R7	B		

3 施設の利用状況

	指定管理者 の自己評価	県の 評価	全期間におけるコメント
R3	A		ホームページやSNS、地元テレビ局伊賀ケーブルテレビ等を通じて、イベント報告や園地の自然の様子等の情報発信を行った。また、「お楽し森の学校」等参加者のニーズを捉えたイベントを数多く開催するとともに、伊賀市内小学校全児童に、イベント情報を掲載した「上野森林公園通信」を定期的に配布し、施設利用者の増加につなげた。年間の施設利用者数は、管理期間において毎年増加し、5年間の管理期間を通して目標値以上を達成した。
R4	A		
R5	A		
R6	A		
R7	A		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

収入の部		支出の部	
指定管理料	142,050,000	事業費	17,826,005
利用料金収入	0	管理費	129,879,343
その他の収入	6,356,788	その他の支出	0
合計 (a)	148,406,788	合計 (b)	147,705,348
収支差額 (a)-(b)	701,440		

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の 自己評価	県の 評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標 項目	目標値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値
R3	A		年間の施設 利用者数	82,000人	113,493人	116,026人	119,276人	121,980人	126,167人
R4	A		施設利用者の 満足度	80%	92.8%	93.3%	93.4%	94.4%	93.8%
R5	A		自然体験型 イベント参加 者の満足度	92%	95.5%	96.4%	96.0%	96.1%	96.1%
R6	A								
R7	A								
全期間におけるコメント									
5年間の管理期間を通して、3つの成果目標項目全てで目標値を達成した。									

6 総括評価

●業務執行にあたっては、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員（常勤3～4名・非常勤2～3名）を森林公園管理事務所に配置した。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を整備し対応を行った。 ●定期的な施設巡回により異常個所の早期発見に努めるとともに、公園内の森林、植栽木、芝生等の植物管理、遊具・建物施設の保守点検、環境美化等の管理業務を適切に実施し、施設の安全・安心な利用環境や快適性の維持に努めた。 ●伊賀や三重の自然の面白さや大切さを感じることができ、直接生きものとふれあえるイベントの開催に努め、子どものみならず大人にも自然への理解や関心を高める機会を創出した。 ●施設利用者数については、ホームページやSNSによる積極的かつタイムリーな広報に努めるとともに、参加者のニーズをとらえ工夫を凝らしたイベントの開催等により、目標値を達成した。 ●「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等生物多様性の保全に向けた取組を積極的に実施した。 ●5年間の管理期間を通して適切な施設管理に努めるとともに、3つの成果目標項目全てで目標値を達成したことを評価する。令和8年度以降も指定管理者に指定されており、これまでの実績を最大限に生かしながら、さらなる利用者の増加や満足度の向上に向けて取り組まれない。また、招致を予定している令和13年全国植樹祭の気運醸成に向けて、積極的に取り組まれることを期待する。
--